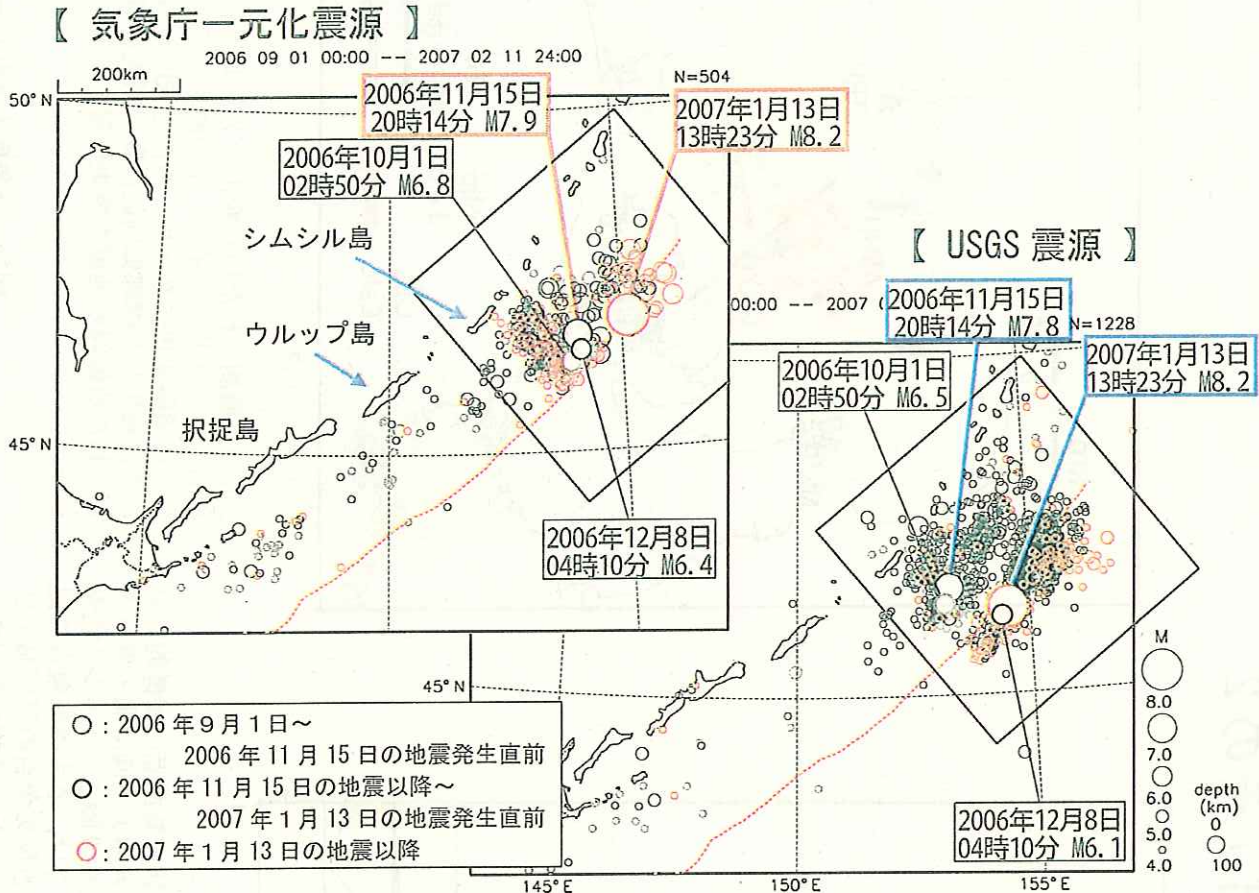


# 千島列島東方の地震について

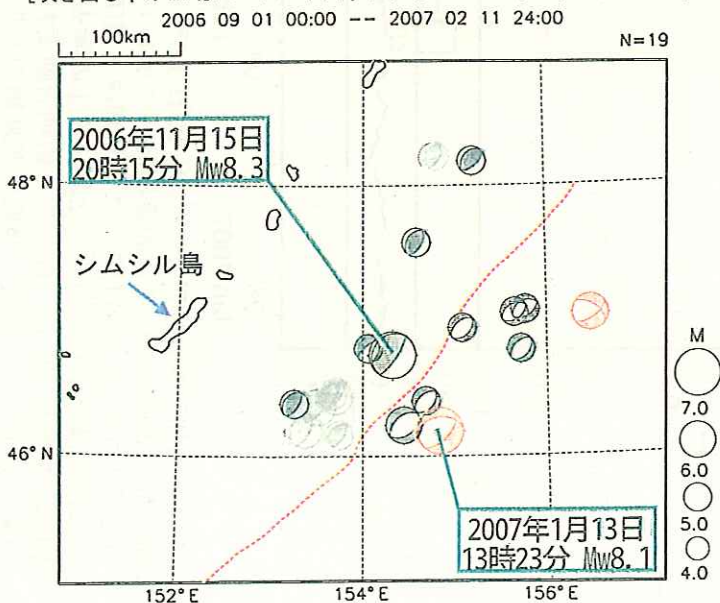
千島列島東方で、2006年11月15日20時14分に  $M_j 7.9$  (最大震度2、USGSでは  $M_s 7.8$ )、2007年1月13日13時23分に  $M_j 8.2$  (最大震度3、USGSでは  $M_s 8.2$ ) の地震が発生した。一元化震源では明確ではないが、USGS震源で見ると、11月の地震直後に既に1月の地震発生領域で活動が活発化していたことがわかる。しかも、ハーバード大学によるCMT解では、11月の地震が起きた西側では逆断層を示す解、1月の地震が起きる東側では正断層を示す解が分布していたことがわかる。

震央分布図 (2006年9月以降、 $M \geq 4.0$ )。



発震機構分布図 (ハーバード大学による CMT 解)

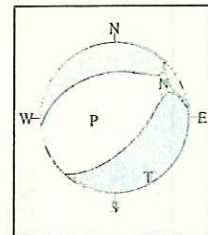
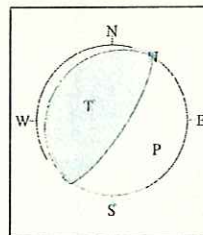
[吹き出し中の  $M_w$  はハーバード大学によるモーメントマグニチュード]



発震機構解 (ハーバード大学による CMT 解)

11月15日の地震

1月13日の地震

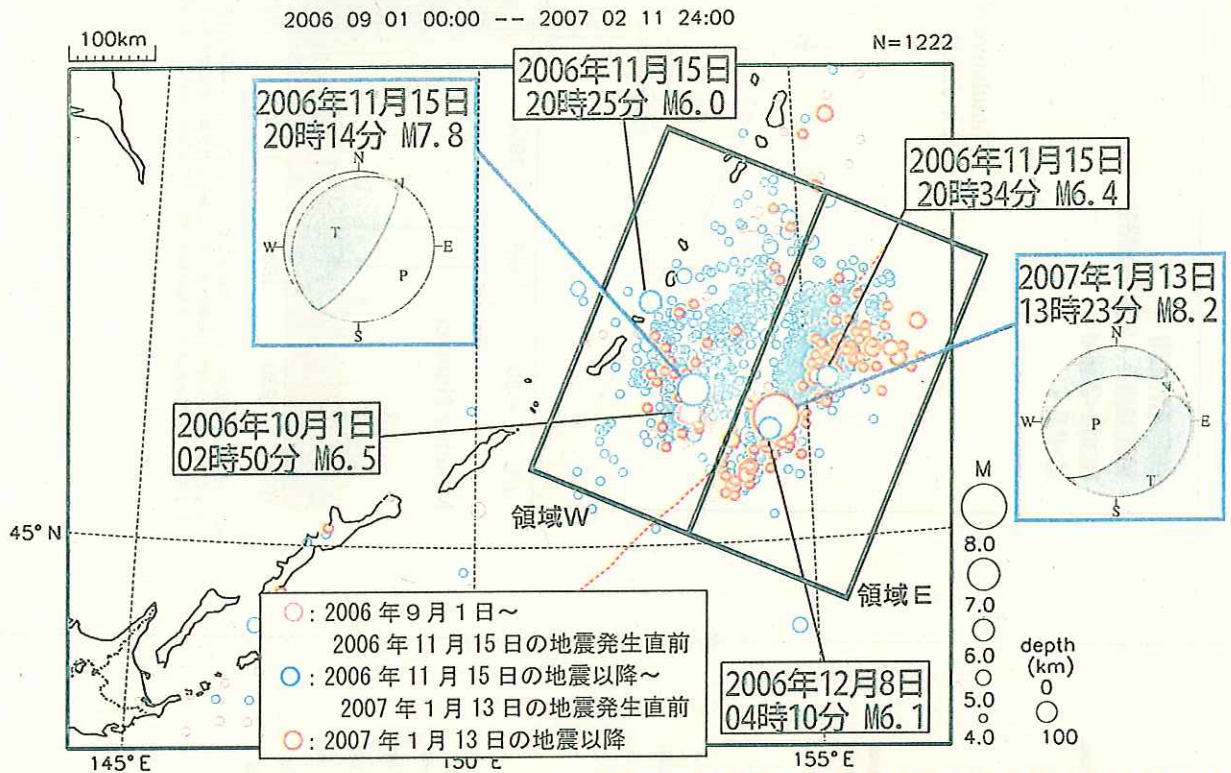


# 2006年11月15日 千島列島東方の地震 以降の地震活動

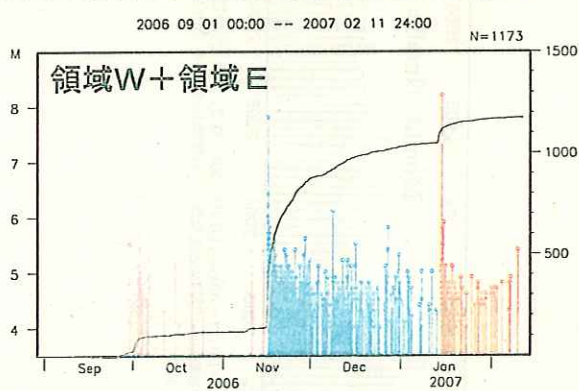
2006年11月15日に Ms7.8 の地震が発生した後、地震活動は Ms7.8 の地震の発生した西側のクラスタ（領域W）と、海溝軸直下の東側のクラスタ（領域E）に分かれて発生した。それらの活動が収まってきた中で、2007年1月13日に Ms8.2 の地震が東側のクラスタ内で発生した。Ms8.2 の地震の後の地震活動は、主として東側のクラスタ内で発生している。（マグニチュードは USGS による）

## 【USGS 震源】

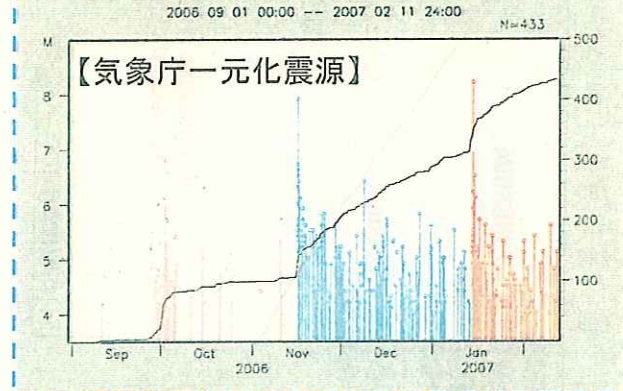
震央分布図（USGS 震源、2006年9月以降、M $\geq$ 4.0）



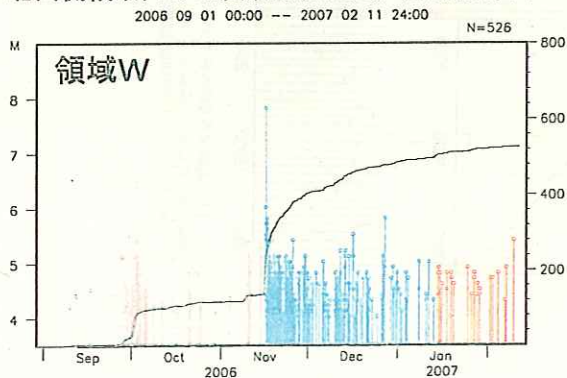
上図全領域内の地震活動経過図、回数積算図



上図全領域内の地震活動経過図、回数積算図



北西側領域内の地震活動経過図、回数積算図



南東側領域内の地震活動経過図、回数積算図

